

金剛小通信 11月 DIAMOND

漁港見学

10月26日（月）、弥次分校と高植校の2年生がそれぞれの学校を出発し、鼠蔵町の植柳新港で合流して実施しました。「自分たちの町のいろいろな方々や物事に会うことで、町への愛着を深めることや、五感を働かせて関心を高め、知りたいことを調べさせる」ということを目的として勉強するのですが、この漁港見学、漁業についての見聞を広める活動を体験された方々は、もう保護者の方々にもおられるそうで、金剛小学校のいわゆる伝統行事になっています。

いろいろな種類の魚に触れたり、漁船に乗せていただいたり、生きている魚を目の前でお刺身にしていただいて食べたりと、子供たちは大はしゃぎ、好天にも恵まれて、それはそれは楽しい一日になりました。私と塩村教頭も乗船体験させていただいた上、コノシロと太刀魚と鯛のお刺身もごちそうになりました。取れたての魚は大変おいしく、魚好きが増えたことを確信いたしました。

分かったことや考えたことをしっかりまとめ、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないようにしてほしいと思います。本当にありがとうございました。

集団宿泊教室

例年は6月頃に実施する5年生の1泊2日の行事を、コロナの影響で延期していましたが、10月27・28日（火・水）実施しました。前々から楽しみにしていた子も、初めての外泊で緊張した子もいたでしょう。感染対策にも気を付けなければなりません。しかし、来年は最上級生としてお手本となり、頼られる高学年になるためには必要な行事ですので、実施することができて本当によかったです。

目標は①規律、②協力、③感謝、④共感、⑤交流、⑥向上の六つでした。④～⑥は学習する『あしきた青少年の家』の常設目標で、訪れるどの学校にも呼びかけられます。①～③が本校の5年生に、この機会を逃さずに身に付けてもらいたいと考えている態度です。

ペーロン船は、例年とは違った方法ではありましたが、「力を合わせれば速度が2倍、3倍…になり、負担が1/2、1/3…になる」ことを学びます。これは日常生活でも「協力すれば楽しみや嬉しさは2倍、3倍…になり、悲しみや苦しさは1/2、1/3…になる」ことにつながることを体感させることを目的としているのだと思います。期待どおり実感できたでしょうか。学んで得たことをこれからの生活に生かしてほしいと思います。

避難訓練

11月5日（木）、地震の後に津波が来ることを想定して実施しました。高植校は津波を想定して3階建てになっていますので、4年生以下も3階や屋上に上がりました。弥次校は平屋なので、昨年度は大鼠蔵山の加藤神社に登りましたが、本年度は、「すぐに津波が押し寄せる」場合を想定し、遠くに逃げずに体育館の2階に上がる計画を子供たちにも知らせました。「では、休日など学校にいないときに、どこに逃げるのか?」、ご家族で話し合って、『もしも』のときの集合場所を決めておいてください。